

7月11日 使徒言行録 19章 13～20節 今日の説教から

説教題：「その日、私たちは罪に支配されていたことを理解した」

私たちキリスト者の信仰は、今日の説教題にあるように「罪の支配からの解放」という大きな前提を土台としています。私たち人間は罪人である、という前提があり、「神様の望みに従うことが出来ていない」ことが大きな問題となっていました。肉の欲望によって、悪霊や悪魔のささやきによって神様の望む正しい歩みの中に留まることが出来ず、罪の奴隸として自由を奪われながら生活している状態が「罪人」という状態であり、私たちキリスト者はイエス様の十字架の贖いによって、その罪から自由になっています。その喜びが、私たちの信仰の大きな前提となっています。

今日の聖書箇所では、悪霊の言葉によってイエス様のことを理解し、信仰へと導かれた人々について記されています。特に、多くの人々が「魔術の書物」を焼き捨て、それまで自分の信じていたものではなく、イエス様のことを信じる道へと導かれことが強調されています。彼らは、自分たちがどれほど愚かなことをしていたのか理解し、魔術によって自分が支配されていたことを理解し、これまで行ってきた悪行を告白し悔い改め、信仰の道に入ることが出来ました。

彼らは、おそらくは悔い改めるその時までは、自分の行いが間違っているとは思っていなかったことでしょう。自分の考えが正しいと信じ込み、本当に正しいことに気づくことが出来ない状態にありました。私たちも、彼らと同じく自分の考えに固執してしまい、神様の言葉を受け入れることが出来なくならないように気を付けなければいけません。人間が決めた基準によって誰かを裁く行いは、それは偶像崇拜と同じ罪を犯すことになります。私たちの行動を導くのは、私たちのことを支配することが出来るのは、神様以外であってはいけません。それにもかかわらず、「こうでなければいけない」という固定観念にとらわれてしまうことは、私たちのその考え方を「神様より上」としてしまう罪、つまり偶像崇拜と同じ罪を犯してしまうことに繋がります。私たちは悔い改め、イエス様の十字架によって罪から自由になっているのですから、進んでまた罪の中に入る必要はないのです。

私たち一人一人が個性ある存在として神様に作り出されたことを尊重し、しかし同時に私たちすべての人間が神様の愛の中にいて、等しく大切にされていることを自覚することが求められています。この「平等」というものを徹底することは、私たちキリスト者にとっては決して簡単なことではありません。自分を大切にしてくれる人を、私たちは大切にしたくなります。私たちのことを邪険にする人には、私たちは関わりたくないという気持ちを抱いてしまいます。しかし、イエス様はマタイによる福音書5章で、「自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか」と語りかけ、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と勧めています。だからこそ、私たちは善人悪人関係なく、そのどちらにも愛を注がなければいけないです。虐げられている人に愛を注ぎ、苦しみの中から救い出し、しかし「虐げている人にも愛を注ぐ」ことによって、間違った考え方から救い出すという事、その決して簡単ではない「どちらも」が求められています。私たちは、イエス様に出会った時、それまでの自分が罪や欲望、悪魔や悪霊に支配されていたことを知りました。そして、イエス様に導かれて、新しい「神様に従う命」を与えられているのです。だからこそ、私たちは差別も悪行もない、平等で公正な世界を目指して歩むことが出来るのです。私たちは「自分の考え方」ではなく「神様の望み」の中に生きることが出来ます。その喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。